

骨髄採取後、長期に渡って腰痛が持続している事例

2003年3月 非血縁骨髄ドナーからの骨髄採取後、長期に渡り腰痛が持続したという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髄採取退院後、疼痛が持続したため、MRI検査を実施したところ両側腸骨不全骨折、骨髄浮腫との診断、その後、再度1週間入院し、8ヵ月後に痛みは軽減しました。

【対策】

当財団では、原因究明と再発防止の観点から、調査した結果、このドナーの採取部位の痛みが長引いた理由として、次の2点が考えられました。

CT検査で認められる骨皮質の不整像、皮質の不連続像から考えられる不全骨折の存在

採取後の止血不良による血腫の可能性

1ヵ月以上疼痛が持続する場合、または、鎮痛剤を1週間以上継続して服薬した場合は、速やかに報告するよう「安全情報」を発出しました。

安全情報(報告) (PDF)